



都立高校に設置された牛乳自販機（全酪連提供）

◎ 全酪連が都立高校に牛乳自販機、実証実験開始

全酪連は10月28日から、都立高校に牛乳の自動販売機を設置する実証実験をスタートした。牛乳・乳製品の消費拡大や価値訴求、新たな利用場面の拡大、販路拡大などを目的に来年3月まで設置する。

小中学校では学校給食の場面で牛乳が広く飲まれていたものの、高校では学校給食がなくなるため、牛乳の飲用習慣が薄れ、飲む機会が大幅に減少してしまっている。そこで全酪連は、農畜産業振興機構の生乳需要基盤確保事業を活用し、成長期にあたる高校生に対し、牛

乳を通じて健康増進を図ることと、酪農現場への理解醸成や牛乳の消費拡大につなげる目的で自販機設置を試みた。設置したのは東京都葛飾区の都立農産高校。自販機には、びん牛乳や紙パック牛乳をはじめ、コーヒー牛乳などの乳飲料、ヨーグルトなどをラインナップ。プロテイン飲料も販売している。商品の補充は地域の牛乳販売店の協力のもと、随時行われる。

今回設置した自販機は、完全キャッシュレスの次世代機。利用者はスマホに専用アプリ「スマート販売機」をダウンロードし、自販機に表示されているQRコードをスキャンして扉を開ける。好きな商品を選んで取り出し、扉を閉めれば自動で決済が完了する。商品は手に取って選ぶこともできる。

購買状況は全てデータ化され、男女別の購買傾向や、日ごと・時間ごとの購入実績が分かるなど、リアルタイムで詳細なデータを一元的に収集できる。そのため品薄商品の補充や人気商品の拡充など、商品を効率的に入れ替えることができる。また現金回収の手間がなくなり、業務負担の軽減につながる。

全酪連によると、自販機はまだ設置して数日だが、生徒の反応は上々。特にコーヒー牛乳が人気なほか、「びん牛乳は珍しい」と飲んでいる生徒もいるそう。学校職員からも「もつと牛乳のラインナップを増やして高校生に飲んでもらうきっかけにしたい」との声が聞かれるという。

全酪連は12月に、「LOVE MILK高等学校」と題した特別授業も予定している。農水省職員が酪農を取り巻く情勢を説明するほか、新規就農希望者に対し、全酪アカデミーの支援や制度の紹介を行う。全酪連は「農業高校ということもあり、酪農に対する関心も強い。消費喚起はもちろんだが、さまざまな形で牛乳・乳製品に触れる機会を作っていきたい」(酪農部)と力を込める。